

# iDi info

季刊誌

2025  
夏  
SUMMER  
VOL.016

## ■iDiメッセージ

鴨井 久一 iDi 歯科医療情報推進機構 理事長  
吹野 昭治 iDi 歯科医療情報推進機構 監事

## ■特別寄稿

痛覚変調性疼痛と痛みの歴史

福田 謙一 iDiセミナー講師 / 東京歯科大学 口腔健康科学講座教授 障害者歯科・口腔顔面痛研究室

## ■iDi認定歯科医師インタビュー

鵜飼 誠 ウカイ歯科クリニック(兵庫県)  
酒井 暁美 医療法人社団美優会 アミーズ歯科クリニック(千葉県)

## ■iDiセミナーレポート

第5回「医科歯科連携の重要性」  
～連携の大きなメリットと口腔機能管理の役割～

誤嚥性肺炎を予防するための実践講習会  
～あなたは誤嚥性肺炎の予防に自信がありますか？～  
DAY1 事前講習及び相互実習

iDi Institute of  
Dental  
Information

特定非営利活動法人  
歯科医療情報推進機構



銀イオン  
除菌液付き

Ag<sup>+</sup>

# nanozilla

ナノ・ジューラ

これからの除菌作業は  
もっとカンタンに

抗  
ウイルス

除菌

抗菌



噴射モードの場合



噴霧モードの場合



ドアノブ ユニット 白衣 など  
接触頻度の高い部分を中心に  
ワンポイント除菌&抗菌



待合室 診察室 トイレ など  
置いておくだけで1部屋2～3時間  
でミストが隅々まで行きわたる

99.9%<sup>※1</sup>  
除菌

24時間  
抗菌

防カビ&  
消臭

素材を傷めない

成分臭ゼロ

安全性検証試験済み

付属の専用除菌液は銀イオンを主成分として作られており、ナノ・ジューラと組み合わせることで効果を発揮します。細菌やウイルスに対し、99.9%<sup>(※1)</sup>以上の高い除菌力を1日1回の噴霧で24時間持続するので作業の簡素化も実現します。

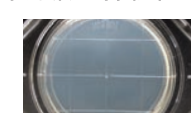
※全ての菌・ウイルスに効果があるわけではありません  
※1 本結果は一定の条件下で行われた試験結果であり、使用状況により効果が異なる場合がございます。

nanozilla 専用液の持続性

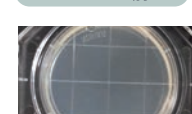
Ag<sup>+</sup>



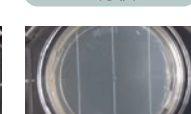
スプレー前



1分後



1時間後



24時間後



nanozilla スターターキット

専用銀イオン除菌液5L付き 24,200円(税込)

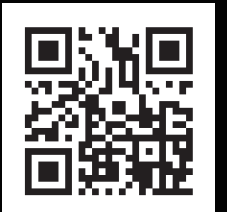
WEBから購入できます  
詳しくはこちら ▶▶▶▶

nanozilla



〒869-1102  
熊本県菊池郡菊陽町原水2849-1  
商品に関するお問合せ: 096-342-1081

公式ホームページ: <https://pikasshu.jp/>





## iDi 監事メッセージ

### 吹野 昭治

Shoji Fukino

iDi 歯科医療情報推進機構 監事



2000年 厚生労働省保健医療局職員厚生課長  
2003年 公益財団法人がん研究振興財団事務局長  
2009年 株式会社保健医療ビジネス代表取締役社長  
2014年 一般社団法人徳洲会顧問  
2020年 学校法人徳洲会湘南鎌倉医療大学常務理事

## 医療は社会のため

医療に従事する者は、患者さんに「最善の医療」を委ねられていると覚悟のうえで、心を誇りで満たして行動することが肝要です。そのため、地域社会への感謝と同時に、医療人としての本質を常に問い直し、人としての理性のもとに行動することが求められています。

医療機関をはじめ労働集約的なサービス組織は、年月を経るのに従い柔軟性と機敏さが奪われ効率が低下します。医療人が活力を失うと、医療サービスへの努力が薄らいでしまいます。組織の衰退を防ぎ、生き残り、発展させるためのキーワードは「社会貢献」「公益の追求」にあります。「医療は社会のため」を貫いていく中で、本質が見えてくるでしょう。そのためには、絶えず医療の質向上に取り組み、優しい思いやりと安心・安全・親切な治療を求める患者さんのニーズに応える必要があります。

医療人はどの職種であれ、夢と希望と誇りをもち、医療に従事していると思います。医療サービスを提供するうえで過去、現在、未来にわたり重要なことは、価値観の維持・継続です。これがエネルギーを与えてきました。

1883年、スペインの建築家ガウディはサクラダ・ファミリア（聖家族教会）の建設に着手しました。141年が過ぎた今も建設は続いています。40年にわたり従事された日本人の外尾悦郎さんは主任彫刻家として活躍しました。外尾さんは「ガウディになるのではなく、彼が見る方向（未来）を見るということに気付いた」と話します。ガウディが彼の中に入り同じ方向を見て考えることで、何をつくるかが自然と理解できるようになったのです。時を超えてガウディの思いを引継ぎ、彼の価値観に近づこうと今も仲間が働いています。

マザー・テレサは「愛の反対は憎しみでなく無関心」と説きました。「診療は患者さんのため」というのは利他の愛です。患者さんの信頼に応えて、少しでも気持ちよく家に帰っていただきたいものです。

心に染みる患者さんの「ありがとう」「お世話になりました」という言葉に、医療人は元気をもらって感動し、さらなる精進を続けていることと思います。これからは長寿社会を見据え、「価値」の創造も問われつつあります。残念ながら現代社会では、アメリカのトランプ政権のように貨幣価値にスポットが当たりやすいのが実情です。

納税者に価値があり、消費する側の立場、とりわけ医療費を消費する弱者は、ますます肩身の狭い思いをする社会となりそうです。既にある人口ピラミッドを変えることはできません。貨幣価値だけで社会が成立しなくなることは明白です。年を重ねることが価値になる社会を創造しなくてはなりません。

医療人は、「医療の正しい方向とは何か」を絶えず問われています。考え方、角度が違うだけで見えるものが違ってきます。一つひとつのものの捉え方によって前進への糸口となり、大きな飛躍の入り口ともなります。その答えが出るのは、もう少し時間がかかりそうです。

## iDi 理事長メッセージ

### 鴨井 久一

Kyuichi Kamoi

歯学博士、医学博士

iDi 歯科医療情報推進機構 理事長



1979年 日本歯科大学歯周病科教授  
1995年 日本歯科大学付属病院長  
2001年 日本歯科大学大学院長  
2004年 日本歯周病学会理事長  
2005年 日本歯科大学名誉教授  
2006年 ウィーン大学再生医療研究所客員教授  
2010年 カンテプール歯科大学客員教授  
2013年 瑞宝中綬章受章

## 医科歯科連携体制の視座を振り返る

昨今、少子高齢化が進行し、高齢者社会において医科と歯科の密接な連携が求められている。特に、介護施設や老人ホームでの対応は臓器別診療体制では対応しきれない問題が多く見られる。この機会に医科と歯科の歴史的推移をたどり、今後の連携の在り方を模索する必要がある。

医科歯科二元論の深化は、第二次世界大戦以後に米国の歯科制度が導入されたことに始まる。それまで専門学校であった歯科は歯科大学（歯学部）に昇格し、医科大学（医学部）と同様の教育・診療体制が組み込まれた。米国主導のもと「Dentistry」の呼称が明文化され、かつての日本では口腔全体の病態を見る口腔科医（ストマトロジーの要素を有する者）と呼ばれていた。しかし、口腔科医の中にも抜歯のみを行なう者や入れ歯製作のみを行なう者など、ピンからキリまで存在した。

また、歯科という名称が「歯に限定して治療する」と誤解を招き、歯肉に口内炎ができて耳鼻科を受診するような時代があったと耳にする。歯科医が口腔全体を治療するという概念を十分に発信できなかった点は、我々自身も反省すべきである。

現在、多くの歯科専門誌では「歯科／口腔」と表記してわかりやすさを図っているが、それも過去の経緯によるものだろう。しかし、いつまでも「歯科」に固執するのでは不十分であり、口腔が全身とどのように関連するかを説明し、呼吸器疾患や消化器疾患などの予防策を講じることが極めて重要である。

各臓器別の専門医制度が確立される一方、スペシャリストとしての制度と並行して、全身を俯瞰的に捉えるシステム構築が緊急の課題だ。たとえば腸－脳相関は医科界で周知の事実として多くのエビデンスがある一方、消化器の入り口である口腔との関連はまだ認識が薄いかもしれない。実際には、口腔内の歯周病原性細菌と大腸がんとの高い相関がエビデンスレベルで示されており、また誤嚥性肺炎は口腔ケアによって予防できることが報告されている。

口腔と他臓器の関連性を踏まえ、特に高齢者対策においては医科歯科連携を強化し、両者で標準的マニュアルを作成することが、高齢者の健康寿命延伸に寄与すると考えられる。



# 痛覚変調性疼痛と

## 痛みの歴史



東京歯科大学  
口腔健康科学講座教授  
障害者歯科・  
口腔顔面痛研究室

福田 謙一



### 痛みの分類:

痛みは、発生メカニズムの違いによって3つに分類されます。歯科臨床では、侵害受容性疼痛が圧倒的に多いですが、他の2種の痛みにも遭遇することがあります。また、これらの痛みが混合することもあります。

#### ①侵害受容性疼痛

正常な感覚神経による警告としての  
痛みの伝達  
(歯髄炎、歯周炎、歯牙破折など)



器質的な異常

脳

#### ②神経障害性疼痛

神経の損傷による  
感覚神経の異常  
(三叉神経ニューロパシーなど)

正常

脳

#### ③痛覚変調性疼痛

脳内のネットワークの中で  
痛みの伝達の変調

正常

脳

「痛み」の新しい用語である「痛覚変調性疼痛」をご存知でしょうか？

痛みの種類は、末梢の組織や器官が感染、外傷、疲労などの侵襲を受けたことと警告として、感覚神経を通じて中枢に伝えられる①「侵害受容性疼痛」、痛みを伝える感覚神経そのものが損傷することによって生じる②「神経障害性疼痛」、そして第3の痛みとして分類に加わったのが本稿のテーマである③「痛覚変調性疼痛」で、3つに大きく分類されます(上図)。痛覚変調性疼痛は、2017年に国際疼痛学会によって提唱された新しい用語「nociceptive pain」の、痛みを専門とする国内8学会の連合(日本疼痛学会など、歯科では日本口腔顔面痛学会)の合意による和訳として2021年10月より使用さ

れています。末梢に明らかな器質的異常や神経の損傷がなく、すなわち痛みを発現させる明らかな原因が見えないにもかかわらず脳の神経回路の中での伝達の異常によって生じる痛みです。

痛みが長期に及ぶこと(すなわち慢性疼痛)や精神心理学的なストレスなどが影響し、脳内の神経ネットワークの中で情動に関与する扁桃体などの大脳辺縁系での修飾を受け、神経の伝達に変化し、前頭前野でそれが統合される時に新たに生じる痛みだと考えられています。昨今の急激な痛み科学の発展によって、元々うやむやであった痛みの概念を具現化するために登場した用語ともいえるかもしれません。

痛みという感覚は、ヒトが生命を維持するために絶対に必要な感覚です

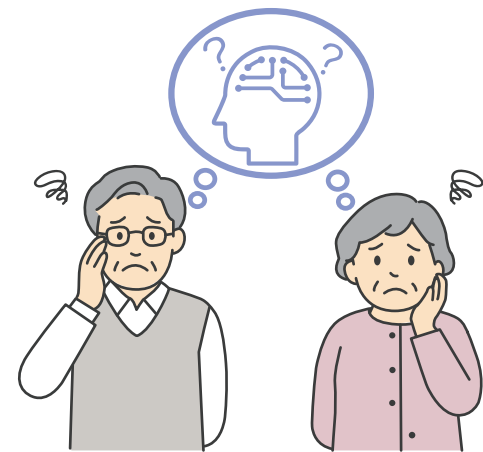
が、歴史的には他の感覚とは別枠で捉えられてきた背景があります。

五感という視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚で構成された概念は、2400年も前のギリシャの哲学者アリストテレスによるものですが、痛みすなわち痛覚がこのリストから外れています。東洋でも仏教の般若心経に類似の「眼耳鼻舌身」の五官が読まれています。痛が「身」の五官が読まれています。痛が「身」の五官が読まれています。痛が「身」の五官が読まれています。

的には神からの戒めとして位置付けられてきました。

人類史上、痛みは、他の感覚とは一線を画した存在であったのでしよう。アリストテレスは、痛みを五感から得られる快感と対立するものとして論じました。その概念から解釈された痛みは、人間の魂・情念から生まれるとされ、宗教

刺激のオリジナル情報は、五感のように単なる直線的な電気信号の伝達ではなく、様々な修飾を受けながら脳の広汎な領域が関与してつくり、痛みという経験になります。その経験の成立には、明らかに怒り、快楽、熱中などが影響していますので、痛みは人間の魂・情念の一種であると長きにわたって伝えられてきたのです。



17世紀になって、「我思う、ゆえに我あり」という言葉で有名なフランス人哲学者デカルトが、刺激と脳をつなげる線すなわち神経の概念を、カトリック教会の異端宣告を受けながらも表現しました。また、この線によって脳へ警報が伝え

られること、すなわち痛みの伝達が人間の防御機構であることを表現しました。その後、1811年にBeerが感覚神経は脊髄後根に中継点が存在することを、1895年にはFreelyが痛み刺激を神経の抹消の痛み専用の受容器で受けることを、そして1965年にMeerzackが一次ニューロンと二次ニューロンの中継点で痛み刺激伝達の強弱が調整されることなど、順に末梢神経の伝達機構が解明され、ここ数年の間に二次ニューロンより中枢の伝達、その調整機構、脳内の神経ネットワークなどが急速に明らかにされてきました。

これらの発展が、「痛覚変調性疼痛」という用語を生んだのです。痛みの伝達には、痛みを増強するアクセル(興奮系)と痛みを減弱するブレーキ(抑制系)の調整によって強弱が変化します。痛みの慢性化や情動の変化は、その調整にも影響していると考えられています。それらがアクセルの暴走やブレーキの失調を起こし、痛覚を変調して痛みが生じると説明できます。

歯科臨床における例を挙げますと、長

引く根管治療において、治療が何度も繰り返し施され、客観的には根管内に異常がないにもかかわらず患者さんが執拗に痛みを訴えるような症例です。

痛みが慢性化することによって痛覚が変調した新たな痛みが生じ、通院が長期継続することによる心理的な疲弊がさらに痛みを増悪している状態です。これらの原因によって、脳内の痛みの伝達に変化し、末梢の状態とは直接結びつかない痛みが生じることがあるのです。また、口腔内の慢性化した原因不明痛の典型である舌痛症も、痛覚変調性疼痛の要素を多く含んでいると考えられています。

この新しい用語、歯科臨床において決して無縁ではありません。頭の片隅に記憶していただければ、幸いです。







機能的な診療設備を有する手術室と、個室も2力所完備され、数多くの患者に対応している。また、ヨーロッパ最高基準をクリアした「クラスB滅菌器」で滅菌を行なうなど、院内は常に清潔に保たれ、「ISO9001」認証による診療体制のマネジメントも取得。安心・安全で快適な歯科治療を実現している。

# 出会いと情熱が育んだ 歯科医師としての原点

iDi認定歯科医師インタビュー

最新を学び、  
最善を届ける  
学び続けることこそが  
最良の診療となる

ウカイ歯科クリニック

# 誠飼鵜

「常に新しい知識と技術を学び続ける」。それは、患者の命を預かる歯科医師としての責任であり、医療人としての矜持でもあると語るウカイ歯科クリニックの鵜飼誠氏。インプラントや咬合治療、顎関節症、予防歯科などに多面的に取り組んできた同氏は、開業から25年以上が経った現在でも、勉強会に参加し技術を研鑽するだけでなく、最新の医療機器も積極的に導入している。「学ぶことが患者の健康を守ることにつながる」という同氏の一貫した信念に迫る。



日本顎咬合学会 理事/嚙み合わせ指導医  
ICOI(国際口腔インプラント学会)認定医  
ドイツ口腔インプラント学会日本支部 認定医  
スタディークラブ 3M 会長  
臨床歯周病学会会員  
大阪 SJCD 会員

「小学生の頃から、人を助ける

仕事がしたいと思っていました。叔父が歯科医師をしていて、診療の話を聞くうちに自然と憧れるようになりました」

そう語る同氏は、夢を叶え、大学卒業後は叔父の歯科医院で基本を学びながら、診療の土台を築き、地域医療の現場に触れた。

「2年間ほど基礎を学ばせてもらった後、より先進的な技術を学びたいという気持ちが強くなり、南清和先生の医院で勤務するこ

とになりました」。

この南清和氏は、総勢150名ものスタッフを抱える「ミナミ歯科クリニック」を率いる歯科医師で、iD-1の理事も務める(※2022年春号にインタビュー記事掲載)。

「ミナミ歯科クリニックでは  
根管治療、咬合治療、インプラ  
ンなど、すべての治療に高度な技  
術が導入されていて、歯科医師に  
なつて3年目の私は大きな衝撃  
を受けました。すべてが新鮮で、  
本気でこの道を極めたいと思わ

せてくれました」

同氏は、文字通り寝る間も惜しんで最先端技術の習得に励み、朝6時から夜中まで勉強と実習の日々を送ったという。南氏のインプラント治療を間近で見たいという理由で、自分の休日に出勤し、手術の現場に立ち会ったことさえあった。

「オペの曰と休みを取り替えてもらい、アシストについてました。さすがに南先生も苦笑いしていましたね(笑)。」ハードな毎日でしたが、辛くはなかったです。目標が見つかり、人は自然に努力できるのだと思いました。

言われてやるのではなく、やりた

いからやる。この違いは非常に大きいと感じました」

この「やりたい」という情熱は、やがて海外へも向かっていく。2001年からは、UCLAの歯周病やインプラントの研究会などに積極的に参加し、歯周病の世界的権威であるヘンリー・タケイ教授ら世界の第一人者たちから直接指導を受けた。

「歯周病治療だけでなく、補綴、噛み合わせ、再構成治療まで包括的に学べました。特にフルマウスリコンストラクションと呼ばれる全顎的な再構築治療は、自

分の診療の核となりました」

そして1999年、同氏はウカ  
イ歯科クリニックを尼崎市の南  
塚口に開院。インプラントへの注  
力に加え、かみ合わせ、顎関節治  
療など、学び続けた最先端技術  
を駆使し、真摯に治療を行なっ  
てきた。特に咬合の乱れ、顎関節  
症、食いしばりといった症状に対  
しては、早くから多面的なアプ  
ローチで原因から解決する治療  
を徹底している。

「インプラントに関しても、患者さんにはまず『なぜ歯が抜けたのか』という原因から説明します。抜けた理由を理解していただ

単に歯を治すことではなく  
人生の質を支える歯科医療

現在、同院には7台の診療ユニットと手術室や個室が2カ所完備され、歯科医師3名、歯科衛生士4名の体制で日々の診療に当たっている。

き、生活習慣やケアの大切さを伝えて、行動変容を促すように努めています」

歯科医師にとって、学ぶということこそが患者にとっての利益につながる、同氏は力説する。学んできた知識を患者に伝えることで、患者自身が口腔内ケアの重要性に気付き、健康意識が高まるからだ。

も導入し、歯周再生療法やインプラント治療における除菌や安全性向上に役立てている。

「インプラント治療に際しても、骨をほとんど削らないデンサバーというドリルを導入しています。インプラントは骨量や

技術の導入は、すべて「患者さんのために」という軸に貫かれている。「新しい機器が出ると、自分で勉強会に行って確かめます。患者さんに安心して使うためには、私自身が納得して選ばないと意味がありませんから」

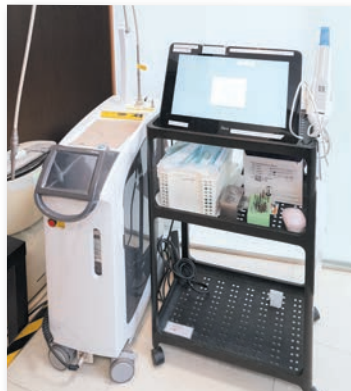
く教材のような存在だ。  
「私自身もまだまだ発展途上ですが、年齢を重ねたからこそ伝えられることもあると思います。それを後進に伝えながら、若手と共に私もさらに成長していきたいですね」

氏の姿勢には、まさに「歯科医師としての矜持」がにじんでいた。



ビル2階・3階

ka.com/



エルビウムヤグレーザーなど、最新の医療機器の動向は常にチェックしている。メーカーの展示会や勉強会への参加に加え、実際に機器を使用している医院を訪れて症例を確認したうえで導入を決定。すべては患者さんにとって有益かどうかを基準に判断している。



検査結果をもとに、現在の口腔状況や具体的な治療方法について説明する「カウンセリング」を実施。治療のメリットやデメリット、費用や期間についても、口腔内写真やイラストを用いて詳しく説明し、患者の希望を聞きながら、より良い治療プランを提案している。

尼崎市南塚口の幹線道路沿いに建  
 つ「ウカイ歯科クリニック」。地域に  
 根差した歯科治療を提供する一方  
 で、歯周外科治療や即時荷重イン  
 プラント、フルマウスリコンストラク  
 ションなど、最先端の歯科医療にも  
 対応している。



ウカイ歯科クリニック

兵庫県尼崎市南塚口町7-28-1 共栄ビル2階・3階

☎06-6422-8241

 <https://www.ukai-shika.com/>



「美の治療」は、意外と多いんです。たとえば唇のボリュームが失われると、老けた印象になってしまします。レーヴルデントのリップエステなどで少し整えてあげるだけで、顔全体が若々しく見えるんですよ」

同院は、歯科治療のみならず、歯や口元の美を追求し続けてきた結果、40年の歴史を持つミセスインターナショナル&ミズファビュラス公認クリニックとして認定されている。



院長自身による『美容歯科医がこっそり教える ほんとうのきれいをつくる方法』など著書も多数。昨年にはチーズプロフェッショナルなどの資格を活かし「チーズではがげんき」というチーズによる虫歯予防を啓発する絵本も上梓。他にも、アロマ製品やスキンケアコスメなど歯と美に関するオリジナル商品も多数プロデュースしている。



歯科クリニックには珍しい「メイクルーム」も備える。女性ならではのきめ細かい心配りを大切にしている同院ならではの設備である。

「美容」と歯科を統合したこのスタイルが、少しでも社会の選択肢を広げるものになればと思います。歯科

「歯科というと、噛めればいい」という考えが根深いですが、私は「美しく噛めること」を大切にしています。きれいに笑える、表情が明

く、それぞれの分野のプロに任せ

「食の提案も、歯科医師の重要な役割。知識を伝えることが、未来の

患者一人ひとりのニーズに応

え、その人にとっての最適な「美し

さ」と「噛める力」、そして自信と笑

顔を提供する。それが、同氏が掲

げる総合美容歯科医療の真価で

ある。

「美容」と歯科を統合したこのス

タイルが、少しでも社会の選択肢を

広げるものになればと思います。歯

科

医療は、もっと自由で、もっと創造

的

でいいと考えています」

美容も機能も、患者の想いに寄

り添いながら実現していく総合美

容歯科医療。その理念は、単なる

治療の枠を超えて、人の生き方や

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

笑顔をも照らす光となっている。

JR総武本線稲毛駅の近隣にある同院。「美優会」も「アミーズ歯科」も、酒井暁美先生のお名前やニックネームから名付けられたそう。だ。「お口と心身をトータルプロデュース」を基本理念として、「Amies Smile」をキーワードに、来院が楽しくなる、新感覚の歯科医院を目指している。



医療法人社団美優会 アミーズ歯科クリニック

〒千葉県千葉市稲毛区小仲台6-14-7 FYSIIビル 2F

☎043-284-5574

🌐 <https://www.amies-dental.com/>

iDi認定歯科医師インタビュー

## 歯科医師ならではの可能性を追求した 美と機能を両立させる 総合美容歯科医療という挑戦

医療法人社団美優会  
アミーズ歯科クリニック  
理事長・院長

# 酒井 暁美

単に「噛めればいい」ではなく、「美しく噛めること」が人生を前向きに変える力になる。そう語るのは「総合美容歯科医療」という独自のスタイルを築いたアミーズ歯科クリニックの酒井暁美氏。インプラントや審美治療に加え、口元の印象やフェイスラインのバランスまでを診る彼女の診療は、まさに歯科医療と美容の融合である。アロマや漢方、栄養指導までを組み込んだトータルケアと、誰もが“もっと自分を好きになる”ための新しい歯科医療を追った。



日本アンチエイジング歯科学会認定医/理事  
ICOI(国際口腔インプラント学会)専門医  
ICD(国際歯科学士会)Fellow  
インビザライン認定矯正歯科医  
日本禁煙学会 認定指導医  
キレーション点滴療法認定医  
高濃度ビタミンC点滴療法 認定医  
南カリフォルニア大学客員研究員  
チーズプロフェッショナル  
ワインエキスパート

## 経験と探求から生まれた 「総合美容歯科医療」

酒井暁美氏が歯科医師を志したきっかけは、小学校3年生の時に書いた作文だった。「虫歯が多くて、痛い治療がつかった。将来は優しい歯医者さんになって、困っている人を助けたい」と綴ったその原体験が、今の診療の原点である。

大学では歯周病学を専攻し、学生指導にも携わった後に上京。勤務医として様々な現場を経験し、10年に及ぶ実績を積んだ末、自身のクリニックを開業するに至った。

「広尾や目黒の医院で、副院長と

して一般歯科や歯周病治療、インプラントなどの治療はもちろん、歯科医院の場所の選定や、スタッフの采配まで任せていただいた経験が、大きな自信となり、開業できま

した」

同氏は、開業当初はインプラント分野に強い関心を寄せていたそうである。当時は女性歯科医師によるインプラント治療がまだ珍しく、最先端の治療技術や、最新の増骨材などを求めて米国ペンシルバニア大学やコロンビア大学、ハー

バード大学へ学びに出るなど、知識と技術の探求に余念がなかった。

患者の口元の変化は、外見の印象を大きく左右すると同氏は語る。そして、その変化が自信や意欲につながり、日常をより前向きに変えていく。だからこそ、美と機能の両面にアプローチする総合美容歯科医療の重要性を強く実感したという。

同氏が考案した総合美容歯科医療とは、基本的な歯科治療はもちろん、ホワイトニングや矯正など、直接的な歯の見た目にとどまらず、噛み合わせ・骨格・表情筋・歯茎・唇・顎のバランスなど、顔全体を包括的に診て治療方針を立てるもので、審美歯科、口腔外科、美容

## 「美しく噛める」を支える、環境とチーム力を実現

美容医療と歯科医療。その二つの分野を融合させるという発想は、まだまだ一般的とはいえないかもしれない。しかし、だからこそその可能性は無限に広がっている。

「歯が整うことで笑顔が変わり、笑顔が変わると、内面から明るさがあふれ出る。そういう患者さんの変化を見られるのが、何よりうれしいです」

総合美容歯科医療の真髄は、単なる見た目の変化にとどまらない。それは機能と審美の両立を図りながら、患者の人生の質を高めることにある。

また、スタッフは全員が女性で構成されており、麻酔に強い看護師、メンタルケア心理士、医療用AIトメイクの技術者、アロマや漢方の資格を持つ人など高い専門性を持つ方々が治療とケアの両面から患者を支えている。

「私がすべてをこなすのではなく、それぞれの分野のプロに任せ

る。きれいに笑える、表情が明

く、それぞれの分野のプロに任せ

る。きれいに笑える、表情が明

る。きれいに笑える、表情が明



講演  
3麻酔科医が考察する  
周術期口腔機能管理の有用性

麻酔科医の立場から、周術期の口腔機能管理の重要性についてお話しします。手術が成功するためには、術前・術中・術後を通じた多職種による包括的な管理が不可欠です。

中でも近年注目されているのが、歯科医師や歯科衛生士による「口腔機能管理」。これにより、術後肺炎や創部感染、歯の脱落などの偶発症を防ぎ、入院期間の短縮や医療費削減にもつながることが明らかになってきました。

## 安本 和正

昭和大学名誉教授



特に高齢患者では効果が顕著で、がん手術を受けた高齢者の肺炎リスクを1/3以下に抑える例もあります。さらに、術前の歯科的評価が歯の損傷防止にも有効であることが、麻酔科の臨床現場でも示されています。

実際、口腔ケアを受けた患者は肺炎の発生率や発熱日数、抗菌薬使用量、在院日数が有意に減少しました。今後は医科と歯科が連携し、手術決定段階から早期に歯科が関与できる体制づくりが不可欠です。

講演  
4医師の立場から医科歯科連携の  
重要性について

現在、全国の病院の約7割が赤字経営という厳しい状況にあります。診療報酬も頭打ちのなか、薬剤費や光熱費、人件費などが増加し、経営はますます圧迫されています。その中で、歯科部門の新設は難しく、多くの病院は歯科診療を外部に依頼しているのが実情となっています。

一方で、フレイルや高齢化によって歯科を必要とする患者は増加しており、医科と歯科が連携する重要性が高まっています。

私の病院では、入院中の全患者に歯科チームが介入し、口腔ケアを

## 小松本 悟

足利赤十字病院名誉院長/  
藤田医科大学特命教授

行なっていますが、それによって誤嚥性肺炎の発症率が9.5%から4%に激減し、在院日数も短縮されました。

これは病院経営にとっても非常に大きな意味を持ちます。ただ、それ以上に大切なのは、患者さんが「口から食べたい」「きれいな口でいたい」と望む気持ちに応えることだと思います。今後は病院と歯科医院、地域と連携しながら、入院前・在宅・退院後まで、切れ目のない歯科支援体制を築いていくことが、医科歯科連携のあるべき姿だと考えています。

講演  
5超高齢社会における  
医科歯科連携について考える

現在の日本は、80歳を超えても多くの歯を保つ高齢者が増えており、口腔ケアの重要性はますます高まっています。しかし医科に比べ、歯科の受診率や継続的な管理意識は低く、課題が残されています。歯科の役割は単に歯を残すことではなく、「食べる」「話す」「笑う」など、生活機能を支える医療であるべきと考えます。特に介護施設では、歯科衛生士の関与が肺炎の予防や体重減少の抑制につながるといったエビデンスも報告されています。

## 渡邊 裕

北海道大学 大学院歯学研究科  
口腔健康科学分野 高齢者歯科学教室 教授

また、口腔機能の低下は栄養や全身の健康にも直結し、看取りの質にも影響します。近年の診療報酬・介護報酬の改定では、リハビリ・栄養と口腔の一体的支援が進められ、地域包括ケアシステムの中での歯科の役割が明確になってきました。

今後は、生活支援の視点から医科と歯科が連携し、多職種で地域の高齢者のQOLを支えることが求められます。

講演  
6医科歯科連携等の多職種連携の現状と  
今後の展望について

日本の高齢化が進む中、医療・介護サービスの担い手の不足が深刻化し、患者のニーズも多様化しています。そうした中で、医療を一職種で完結させるのは難しくなっており、多職種による連携、特に医科と歯科の連携がますます重要になってきました。

たとえば、周術期口腔機能管理や糖尿病と歯周病の相互関係に関する取り組みでは、歯科の関与が医療成果を高めることが示されつつあります。

## 和田 康志

厚生労働省 保険局医療課  
歯科医療管理官

診療報酬でも、医科の中に歯科との連携評価を取り入れる改定が進められており、歯科衛生士や歯科技工士の確保・定着も課題とされています。

また、薬局との連携強化も検討されています。今後は、外来や在宅医療の分野でも連携の拡大が求められ、教育や研修の場面でも、職種間の相互理解を深めていく必要があります。診療報酬だけでなく、包括的な仕組みづくりが今後の鍵になると考えています。

## 第5回

医科歯科連携の重要性  
～連携の大きなメリットと口腔機能管理の役割～

## 当日の講演録を抜粋してお届けします。

6月29日(日)、「医科歯科連携の重要性 ～連携の大きなメリットと口腔機能管理の役割～」と題したセミナーを厚生労働省の後援のもとオンラインで開催いたしました。医科歯科連携に関する当セミナーは本年度5回目の開催。基礎医学の分野から、実際の現場でご活躍中の先生方、さらには行政の幹部の皆さままで、幅広い分野の先生方にご講演をいただきました。

医科と歯科の連携の重要性は、これから高齢化がますます進む日本において、さらに高まっていくものと考えられます。このセミナーが、医科歯科連携を深めるための実りある学びの場となると同時に、患者さんにとってより良い医療の提供につながることを願っております。

また、講演以外にも質疑応答やディスカッションも開催され、積極的な意見交換と問題提起がなされ非常に充実した内容でお届けすることができました。

医科歯科連携セミナーは来年も開催いたしますので、ぜひ、多くの方々の参加をお願いいたします。



## 座長



## 唐澤 剛

iDi理事 /  
社会福祉法人サン・ビジョン理事長 /  
佐久大学客員教授

## 矢島 安朝

iDi理事 / 松本歯科大学  
銀座8丁目クリニック院長 /  
東京歯科大学名誉教授講演  
1

## 口腔細菌と全身の健康

人の身体には、自分の細胞の10倍もの常在菌が住んでいます。口の中にも200種類以上の菌がいて、普段はうまく共生しているのですが、そのバランスが崩れると歯周病や虫歯の原因になります。最近では、歯周病の原因は特定の菌ではなく「菌のバランスの乱れ」だという考え方が主流になってきています。

その影響は口だけにとどまらず全身にも広がります。たとえば歯周病の菌が腸に届くと腸炎が悪化したり、血液に入ると心臓や血管に悪さ

## 石原 和幸

東京歯科大学 微生物学講座教授



をすることもあります。また、高齢の方は口の中の菌が肺に入って誤嚥性肺炎になるリスクもありますが、口腔ケアを続ければそれを防ぐことができます。

つまり、歯科は単に歯や口の治療をするだけではなく、全身の健康を守る入り口です。これからは医科と歯科がしっかり連携していくことが、地域医療の中でもとても大切になってくると思います。

講演  
2糖尿病と歯周病の深い関係から  
医科歯科連携の実際と将来について

歯周病と糖尿病は密接な関係があり、双方が互いに影響し合う「双方向性」の疾患です。糖尿病患者は歯周病が悪化しやすく、逆に歯周治療を行なうことで血糖値の改善にもつながることが、多くの研究から明らかになってきました。なかでも糖尿病は、歯周病と全身疾患の関連で最もエビデンスが高いとされ、歯周病は糖尿病の「第6の合併症」として位置づけられています。

歯科医療の現場では、血糖コントロールが不十分な患者の歯科治療

にリスクが伴うことも多く、医科との連携が不可欠です。現在では、糖尿病患者に歯科受診を促す医科の診療報酬制度も始まりましたが、歯科側の受け入れ体制や情報共有の仕組みはまだ十分ではありません。将来的には、歯周病の炎症面積を数値化した「PISA」などの指標を共有し、医科歯科の連携を深めていくことが期待されます。こうした連携の推進には、個人間だけでなく、学会や自治体の協力が必要であり、エビデンスとデジタル化を活用した仕組みづくりが重要となってきます。

## 吉成 伸夫

松本歯科大学  
歯科保存学講座(歯周)教授 /  
日本歯周病学会理事長



歯援診 口管強

在宅療養支援歯科診療(歯援診)並びに  
口腔管理体制強化加算(口管強)に関する研修会

外安全

歯科外来診療医療安全対策加算(外安全)に関する研修会

歯初診 外感染

歯初診と歯科外来診療感染対策加算(外感染)に関する研修会

会場 / オンライン開催

新型コロナウイルス感染症対策のため、  
本研修会は現地開催、及びオンライン配信  
のハイブリッド WEB 方式で開催します。

会場

御茶ノ水ソラシティ  
カンファレンスセンター1階 Room C  
東京都千代田区神田駿河台 4-6

2025

9/28日

歯援診

口管強

講師:森戸 光彦 鶴見大学 名誉教授

①在宅療養支援歯科診療(歯援診)並びに口腔  
管理体制強化加算(口管強)に関する研修会

10:00~12:00

(受付開始 9:30~)

研修会後に施設基準申請手続き  
についてiDi事務局から連絡

12:00~

外安全

講師:丹羽 均 大阪大学歯学部附属病院  
特任教授②歯科外来診療安全対策加算  
(外安全)に関する研修会

13:00~14:30

(外安全のみ受講 受付開始 12:30~)

研修会後に施設基準申請手続き  
についてiDi事務局から連絡

14:30~

歯初診

外感染

講師:泉福 英信 日本大学 松戸歯学部  
感染免疫学講座 教授③歯初診と歯科外来診療感染対策  
加算(外感染)に関する研修会

14:50~16:20

(歯初診のみ受講 受付開始 14:30~)

研修会後に施設基準申請手続き  
についてiDi事務局から連絡

16:20~

2025

12/7日

歯援診

口管強

講師:森戸 光彦 鶴見大学 名誉教授

①在宅療養支援歯科診療(歯援診)並びに口腔  
管理体制強化加算(口管強)に関する研修会

10:00~12:00

(受付開始 9:30~)

研修会後に施設基準申請手続き  
についてiDi事務局から連絡

12:00~

外安全

講師:福田 謙一 東京歯科大学  
口腔健康科学講座 教授②歯科外来診療安全対策加算  
(外安全)に関する研修会

13:00~14:30

(外安全のみ受講 受付開始 12:30~)

研修会後に施設基準申請手続き  
についてiDi事務局から連絡

14:30~

歯初診

外感染

講師:泉福 英信 日本大学 松戸歯学部  
感染免疫学講座 教授③歯初診と歯科外来診療感染対策  
加算(外感染)に関する研修会

14:50~16:20

(歯初診のみ受講 受付開始 14:30~)

研修会後に施設基準申請手続き  
についてiDi事務局から連絡

16:20~

■参加費用  
(会場/  
オンライン共)

|             | 歯援診/口管強 | 外安全のみ   | 歯初診/外感染のみ | 外安全/歯初診/外感染 |
|-------------|---------|---------|-----------|-------------|
| 一般 (会員以外)   | 30,000円 | 20,000円 | 20,000円   | 30,000円     |
| iDi/ISM認定会員 | 5,000円  | 3,000円  | 3,000円    | 5,000円      |

※災害や講師急病等やむを得ない事情で中止となった場合、参加費の全額返還、もしくは次回開催に振替させていただきます。但し中止によって生じた、  
旅費、宿泊費や届出の遅れによる逸失利益など、参加者各位の損害については補償できません。ご同意のうえお申し込みください。2025年 iDi歯科学会 社会のニーズを背景に歯科医療の未来を考える  
ー口腔と全身の関係からみえてくる歯科医療の重要性ー

大会長 矢島 安朝

参加費  
無料

2025

9/7日

10:00~

17:00

(受付9:30~)

会場 AP新橋

A-PLACE新橋駅前4階Dルーム

〒105-0004

東京都港区

新橋1-12-9

会場 / オンライン開催

新型コロナウイルス感染症対策のため、本学会は現地開催、  
及びオンライン配信のハイブリッドWEB方式で開催します。

特別講演I

「最近の歯科保健医療の動向~各地域で求められる歯科医療提供体制の構築に向けて~」

小嶺 祐子

厚生労働省医政局  
歯科保健課長

講演1

かかりつけ歯科医のみを持つことと、QOL、生存維持、要介護予防との因果構造

星 旦二 東京都立大学名誉教授、元・放送大学客員教授

講演2

医科歯科二元性から見た口腔医療の在り方

鴨井 久一 iDi理事長、日本歯科大学名誉教授

講演3

歯科の重要性についてー患者の立場からー

和田 勝 iDi副理事長、元・厚生省審議官

講演4

健康寿命・幸福寿命・貢献寿命と歯科医療との関わり

石田 瞭 東京歯科大学口腔健康科学講座 摂食嚥下リハビリテーション研究室 教授

講演5

令和に必要な口腔から始まる全身の健康とは何か？

個から集団感染症制圧のために貢献する歯科医療の新たな役割

泉福 英信 iDi理事、日本大学松戸歯学部 感染免疫学講座教授

講演6

高齢期の口腔機能管理の視点:オーラルフレイル

平野 浩彦 東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科部長、日本老年歯科医学会理事長

※歯科学会終了後 懇親会を開催しますので、是非ご出席くださいませ。

参加をご希望の方は、  
iDiホームページより  
お申し込みください。

iDi 歯科

<https://www.identali.or.jp/>

研修会についてのお問い合わせ

実践講習会についてのお申し込み

03-5842-5540

お預かりした個人情報、本研修会の運営並びにiDiから参加者への情報提供以外の目的には使用いたしません



ばりろく/PIXTA

On the Cover [今号の表紙写真]

日本の景勝地「奥入瀬溪流」(青森県)

青森・秋田の両県にまたがる十和田湖から流れ出る奥入瀬川のうち、滝や清流  
を成しながら、焼山まで約14km続く流れが「奥入瀬溪流」。十和田八幡平国立  
公園を代表する景勝地であり、特別名勝、天然記念物として国の指定を受けて  
いる。溪流沿いには車道と遊歩道が整備されており、道を包むように続くブナ  
やカエデのトンネルや、清流、滝、岩など数多くの見どころがあり、四季折々の  
自然の美しさを味わいながら散策を楽しめる。

iDi info 2025 夏号

企画・発行: 特定非営利活動法人 歯科医療情報推進機構  
〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目24-17ネクストビル403

編集: 庄司信晴 (PAL)・松井英樹 (PAL)

撮影: 小林伸

デザイン: 上野はじめ

Copyright © 2025 iDi All Rights Reserved.

●本紙掲載記事の無断転載を禁じます。

誤嚥性肺炎を予防するための実践講習会  
～あなたは誤嚥性肺炎の予防に自信がありますか?～

6月15日(日)、2日間にわたって開催される「誤嚥性肺炎を予防するための実践講習会」の  
初日プログラム(事前講習)が、御茶ノ水ソラシティにて行なわれました。この実践講習会はiDi  
が10年以上開催を続けている人気のプログラムで、「摂食嚥下機能」を理解し、高齢者などに  
対する「口腔機能管理」を実践できる歯科医師・歯科衛生士を養成するものです。高齢者への  
口腔ケアやリハビリテーションなどの様々な技術を習得できる貴重な機会となり、これまでに  
非常に多くの参加者の方々に学んでいただきました。

実践講習会で学ばれる技術や知識は、訪問診療にも必須のスキルとなり、高齢者のフレイル  
の予防や摂食嚥下機能の維持・向上のためにも欠かせません。今後、皆さんの現場で普及して  
いただければ、この講習会有意義であったことになります。

iDiでは2026年も実践講習会を開催しますので、ぜひ多くの歯科医師・歯科衛生士の方々  
のご参加をお待ちしております。



DAY 1

## 事前講習及び相互実習

東京科学大学大学院  
地域・福祉口腔機能管理学分野 教授  
オーラスヘルスセンター センター長  
松尾浩一郎

松尾氏による講演「多職種連携で取り組むオーラルマネジメント」で  
は、口腔・栄養・リハビリテーションの多職種が協働することで、より効  
果的な自立支援・重度化の予防につながると、一体化の重要性が説か  
れました。また、その取り組みに欠かせない、アセスメントによる職種間  
連携を実現するツールとしてOHAT(オーハット)の解説と実践が行な  
われました。OHATは口腔内の歯肉や粘膜、舌、残存歯、口内清掃状態  
などを客観的に数値化し、共通の認識を持つためのものです。

歯学博士/かもだ歯科クリニック院長

鴨田勇司

日本老年歯科医学会認定医  
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士  
聖隷クリストファー大学臨床准教授

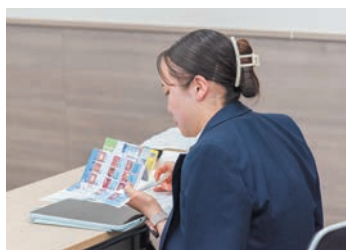
鴨田氏は「誤嚥性肺炎を予防するための口腔機能管理(口腔ケア)」  
の講演を行ない、誤嚥性肺炎の実態や原因の解説にはじまり、摂食嚥  
下障害の評価法と「RSST」や「MWST」など様々なスクリーニングテス  
トの方法を詳しく説明。また、嚥下リハビリテーションとして「アイス  
マッサージ」「嚥下反射促通主義」「Kポイント刺激」「ガムラビング」な  
どの実践方法を紹介しました。さらに、参加者同士による相互実習の  
指導を行ないました。

## OHAT(オーハット)の実践

実際に「OHAT」を使用して、様々な症例写真をもとに、口  
唇、舌、歯肉・粘膜、唾液、残存歯、義歯、口腔清掃、歯痛の  
8項目を健全(0点)から病的(2点)までの3段階で評価し、  
口腔環境を数値化する実践が行なわれました。

※このOHATはWebからダウンロードして使うことができます。  
<https://www.ohcw-tmd.com/research/ohat.html>

| 口腔アセスメント(OHAT) |     |    |        |     |      |     |       |
|----------------|-----|----|--------|-----|------|-----|-------|
| 2-スコア          | ①口唇 | ②舌 | ③歯肉・粘膜 | ④唾液 | ⑤残存歯 | ⑥義歯 | ⑦口腔清掃 |
| 0点<br>健全       |     |    |        |     |      |     |       |
| 1点<br>やや不良     |     |    |        |     |      |     |       |
| 2点<br>病的       |     |    |        |     |      |     |       |
| 評価             |     |    |        |     |      |     |       |



## 現場で使える口腔ケアの手技と実践(相互実習)

高齢者への口腔ケアの実践練習として、ゼリーを痰や剥離上皮などに見  
立てて上顎に貼り付け、スポンジブラシで口腔内を清拭する手技や、口唇  
と口腔粘膜の保湿の方法などを、参加者同士による「相互実習形式」で行  
ない、口腔ケアと口腔機能管理ができるリハビリテーション技術を実践的  
に学びました。





# セプトカイン® 配合注カートリッジ

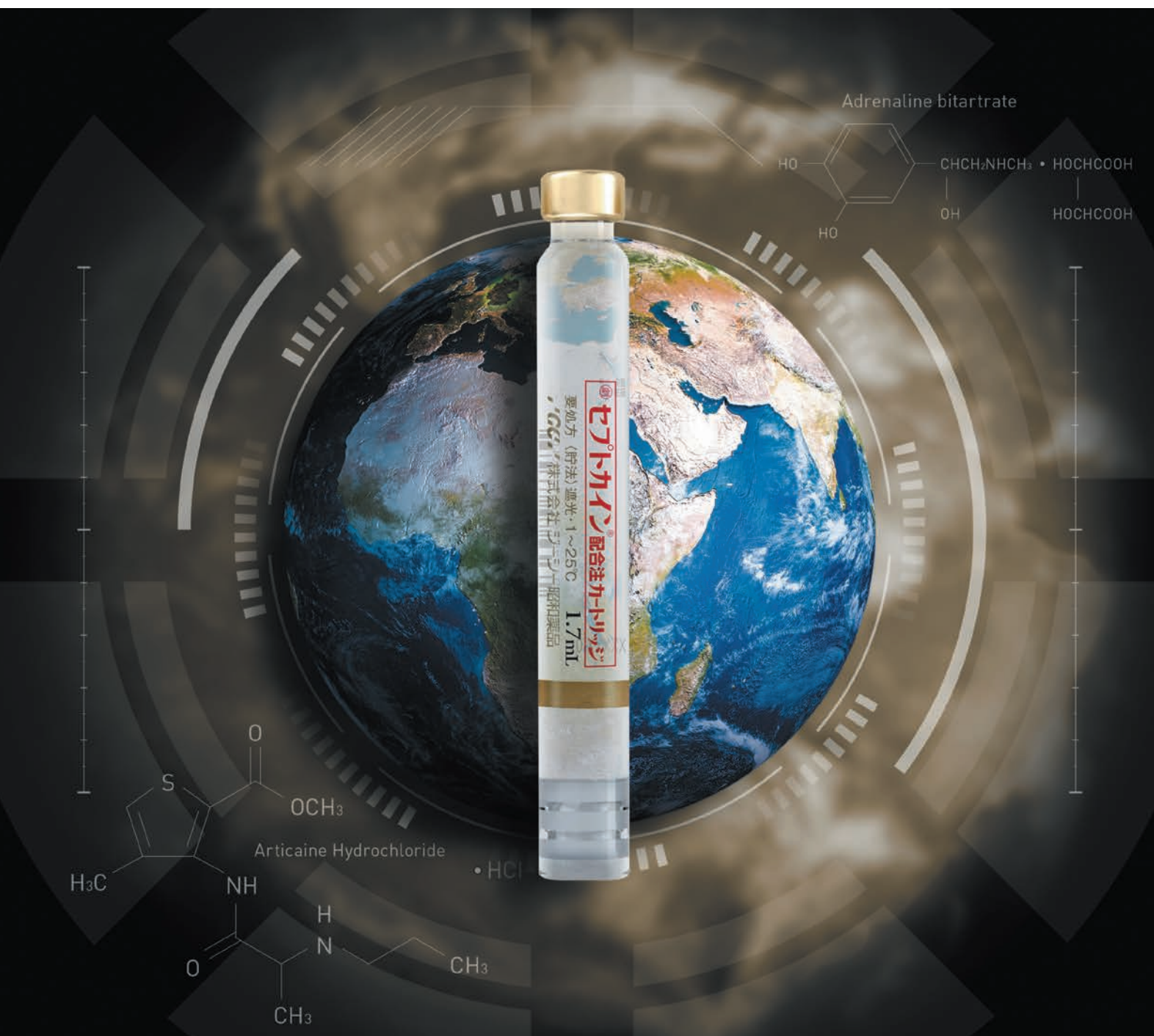
歯科用局所麻酔剤 劇薬、処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）

アルチカイン塩酸塩・アドレナリン酒石酸水素塩注射剤  
Articaine hydrochloride 4% with 1:100,000 adrenaline as bitartrate, injection

医薬品リスク管理計画対象製品

薬価基準収載

日本標準商品分類番号:87271



## 2.禁忌（次の患者には投与しないこと）

2.1本剤の成分又はアミド型局所麻酔薬に対し過敏症の既往歴のある患者

効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報等については電子化された添付文書をご参照ください。



製造販売（輸入）元

株式会社 ジーシー昭和薬品  
東京都板橋区蓮沼町76番1号  
TEL：0120-648-914  
〈受付時間〉9：00～17：30（土・日・祝日・弊社休日を除く）

提携先



製造元

NOVOCOL PHARMACEUTICAL  
OF CANADA INC.

SEPA41C-25QCP01  
2025年7月作成



## Recycle

### 貴金属分析・精錬

自社工場にて高精度な分析精錬を行い、使用済の貴金属を1gたりとも無駄にする事なく回収いたします。回収した貴金属はインゴットとしてだけでなく、歯科用合金「キャストマスター」や、貴金属粘土「アートクレイシルバー」としても生まれ変わります。



LONDON  
PLATINUM &  
PALLADIUM  
MARKET

- ◆ISO9001認証取得
- ◆ISO14001認証取得
- ◆LPPM認証取得
- ◆JAPHIC認証取得

## Clean

### 産業廃棄物適正処理

第三者評価機関として都が指定した公益財団法人東京都環境公社より、優良性基準適合の認定（産廃プロフェッショナル）を取得しております。全国の事業所につきましても同様の基準で産業廃棄物を適正処理する体制を構築しております。



## Support

### 歯科研修会場 DHA

歯科医師・技工士・衛生士の皆様の学究活動にお役に立つことを第一義とし、個人・スタディグループ・学会等、主催を問わず会議・講習会・実習会など多目的に有効利用してください。



## 相田化学工業株式会社

歯科営業部

〒183-0026 東京都府中市南町 6-31-2  
TEL：042-366-1201 FAX：042-366-3101  
札幌・仙台・新潟・郡山・埼玉・千葉・神奈川・東京・甲府  
長野・静岡・名古屋・大阪・広島・香川・福岡・鹿児島



私たちは新たな付加価値を創造し、  
モノにもう一度「命」を吹き込む会社です。

Make things regenerate.

We create and add extra values, in order to breathe “life” into matters once again.